

New Design Education

新しいデザイン教育

「デザインを一言でいうと何と答えますか？」

ある一つの目的の下に、社会的・経済的・技術的・心理的・生理的などの諸要素を統合して、工業生産のラインに乗せることができるような製品を計画・設計することである。

—モホリ・ナギー、マルドナード

海文堂出版 高等学校用デザイン技術より引用

つまりデザインとは、問題を解決するために考え、それを表現することです。

幼児期や小・中学校などを振り返ってみても、この答えを正しく答えられるほどデザインの教育を受けていないように思います。

また、デザインが少しでも似ているだけで「パクリ」だとか「模倣」などと言われてしまう現状があります。このように、デザインにおいて日本はまだ発展途上国なのです。



1 工業・商業デザイン制作

小学校

理科、図工で学んだことを活かして制作

昆虫をモチーフに
ハンカチのデザイン

→ 苦手意識をなくす



豆電球を使った
ランプのデザイン

→ 生活に楽しみを



中学校

技術・家庭、美術で学んだことを活かして制作

使う人、使う場所を設定して本棚を
デザイン(ユニバーサルデザイン)

→ 生活がより便利に



伝達する情報を決め、手描きのイラストを画像
にして、ポスターをデザインする

→ 広告・公告

自然を守ろう
ポイ捨てダメ!



2 プレゼンテーションの実施

制作者は完成後に以下のことを伝える。

1. デザインの制作意図など（コンセプト）
2. 上手くいったところ、いかなかったところなど（自己評価）
3. 友達のデザインの感想（他者評価）

この活動を取り入れることで、デザインへの意識が高まり、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力も向上する。



まとめ

義務教育の小・中学校などで、全員がデザイン教育を受ける



デザインの考え方や制作方法、評価方法など身につけ、「パクリ」や「模倣」と「オリジナル」の境界線がわかる人が増える



- ・デザインの幅が広がり、良いデザインが生まれ価値観が上がる
- ・プロのデザイナーのレベルが上がり、胸を張って仕事ができる
- ・日本のデザイン力が高まる

